

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「古典芸能の世界 / 狂言「柿山伏」を楽しもう」 教材名「古典芸能の世界 / 狂言「柿山伏」を楽しもう」

2 単元の目標

古典芸能の解説や作品に親しみ、昔の人の感じ方を知ることができる。作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典芸能の解説や作品に親しみ、昔の人の感じ方を知っている。 〔知識及び技能〕(3)イ	①「読むこと」において、作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめている。(C(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

狂言の言葉や動きと出来事の間接性を確かめ、古典芸能の面白さを考える。声の大きさやまねの上手さだけで評価しない。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)イを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教科書の解説と利用可能な公式の上演資料を分けて確かめる。教科書の台詞は教師が授業内で示し、配布する指導案には引用しない。演じることが苦手な児童は言葉と動きの関係を図で説明する。おおむね満足できる状況は、作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○解説で狂言の特色を確かめる。作品の出来事と人物を整理する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○言葉と動きの働きを比べる。面白さの理由を根拠付きで伝える。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」 【めあて】狂言の言葉や動きと出来事の間係を確認、古典芸能の面白さを考える。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の繰返しで出来事が分かりやすくなった。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」 言葉と動きの働きを比べる。面白さの理由を根拠付きで伝える。 言葉・動き・そこから受けた印象を対応させた鑑賞メモ。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の繰返しで出来事が分かりやすくなった。 ・動きがあると人物の気持ちを想像しやすい。 ・現代と違う言い方でも面白さが伝わる。	教科書の解説と利用可能な公式の上演資料を分けて確かめる。教科書の台詞は教師が授業内で示し、配布する指導案には引用しない。演じることが苦手な児童は言葉と動きの間係を図で説明する。 想定するつまずき：笑った理由が説明できない、作品にない台詞を既存の本文として足す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・現代と違う言い方でも面白さが伝わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

